

# 個別の調査学習で調べた内容以外の事実や見方・考え方に気付き、広い視野から自分の考えを持たせるための社会科指導はどうあったら良いか

実践校第2年次 下伊那郡天龍村立天龍中学校 河野 智枝

## 1. 実践の概要

### (1) 実践した教科

○社会科

### (2) 新聞の提供状況

○図書館に配置

- ・当日の新聞を決められた場所に毎朝並べた。日にちが過ぎたものは各紙毎分け、保管した。
- ・図書館で新聞が読めるということを、校長講話で話題としたり、朝読書の時間に教室に新聞を持ち込むなどして新聞に興味を持たせるようにした。

### (3) 新聞を取り入れた授業をする上で特に工夫したこと

○個別の調査学習のまとめを新聞形式にさせたこと。

本物の新聞の形式にこだわり、特に見出しの作成に重点を置いた。

(「パーソナル編集長」使用)

○実際の新聞記事に補足の記事を書き加えるという作業を授業の展開の中心にしたこと。

(信濃毎日新聞 2007年5月16日の県内高齢化率の記事)

○調査活動では気付けなかった、関係者の生の声を資料としたこと。

関係者(天龍村村長)からの手紙を新聞形式にまとめ、資料として提示した。

## 2. 単元展開

### (1) 研究テーマに行きつくまで

現行の中学校学習指導要領の社会科の目標では、公民としての基礎的教養を培い、公民的資質の基礎を養うために、「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する」ことが必要であるとしている。「諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する」とは、資料を適切に収集、選択、処理、活用し、それらの資料に基づいて考察、判断する態度を身に付けさせることであるという(中学校学習指導要領解説社会編より)。本校社会科でも、そのような活動を「調査活動」と位置付けて、各分野さまざまな単元で学習問題を設定し、それに基づいてインターネットや聞き取り、図書などの手段を用い資料を収集し、選択、処理、活用を目指す活動を行っているが、調査活動において本校の生徒には次のような実態が見られる。

- ・個別やグループ別の調査活動を意欲的に行い、多くの資料を粘り強く集めることができるが、まとめの場面では、集めた資料の取舍選択を行わなかったり資料を丸写ししてまとめたりすることがあり、自分自身での理解が不十分な場合がある。
- ・そのため、全体追究の場面において発表内容が聞き手に十分伝わらないことがあり、結果的に自分が調査した内容に関することのみが強く印象に残る。友の発表や調査活動では気付けなかったことなど自分が調査していない内容に興味関心が持てず、それらの共有化につながらない。より広い視野から自分の考えを持つことができない。

さらに、この理由を考えると、

- ・調査活動のまとめの場面での、聞き手に興味関心を持たせるようなまとめ方や発表の仕方をさせる手立ての不足。
- ・全体追究の場面での、より広い視野から自分の考えを持たせるための資料の不足。
- ・全体追究の場面での、発表や発表を聞く方法の確認不足。

といったことが考えられた。

調査活動のまとめの場面での、聞き手に興味関心を持たせるようなまとめ方や発表の仕方に重点をおいた場合、自分自身が調査活動の内容を十分に理解していることが必要となり、必然的に適切な選択、処理といった過程をふまなければならないと考えた。また、全体追究での場面で、教師が調査活動の状況を把握した上で適切な資料を用いた場合、調査活動の内容をふまえ生徒により広い視野から自分の考えを持たせることができると考えた。以上のような改善を要する点について手立てを設けたとしても、全体追究の場面での、聞き手の表情を見ながら発表すること、発表内容の根拠を示すこと、聞きながらよく分からない時は質問をするなどしてその都度、内容をはっきりさせ、積極的に自分が調査していない内容について理解をしていくことなどの全体追究の基本的な取り組み方を明確にし、事前に指導をして習慣付くことを目指していかなければ、効果が期待できないであろう。

そこで、クラス全体で設定した学習問題に対して、個別またはグループ別で調査活動を進めた後のま

とめの場面での手立てや全体追究のあり方に焦点を当てて考えてみたい。それらに工夫を加えて、自分が調査しまとめた内容以外の事実や見方・考え方に気付き、学習を進めてきた事象に対して広い視野に立ち自分の考えを持つことができる力を育てたいと考え、上記テーマを設定した。

(2) 研究方向の決めだし 「都道府県を調べよう」(平成19年11月 1学年)

①学習問題「長野県を紹介しよう!」に基づき、個別に、長野県の特徴がよく表れていると思われる新聞記事を集め、レポートを作成した。そのうちの1つである長野県の果樹栽培に興味関心を持たせ、新たな学習問題「将来の長野県の果樹栽培はどうなっている?」を設定する場面です...

(各果樹の生産都道府県の割合の資料を確認)

T : 長野県の果物生産は高いということが分かるかなと思います。実は、私も皆さんのレポートをまねて1つレポートを作ってみました。問題です。このレポートはS9さんのレポート(果樹栽培の記事をもとにしたレポート)と比べるとひとつだけ明らかに違う点があります。分かりますか?

S : カラーじゃない? S : 新聞じゃない? S1 : 古い新聞?

T : それはどこを見てそう思った? S1 : 白黒だから。

T : レポートが1枚しかなくて見にくいと思うので、この果物の大きさを自動で分ける機械の記事と高森町の市田柿の記事をプリントにしたので配ります。

S2 : すっげー古い。俺らが生まれた年だ。

T : 1994年の記事です。今から13年前の新聞記事です。13年前の新聞記事にもこれだけ果物の記事が載っているんだよ。(1994年 各果樹の生産都道府県の割合の資料を確認)

T : これ(教師のレポート)が1994年の過去の新聞記事で皆さんの手元には1994年の生産量の資料ね。これ(S9生のレポート)が2007年の現在の新聞記事で皆さんの手元に2006年の生産量の資料ですね。これをもとに考えたいのは、過去、現在ときて... S2 : 未来?

T : そう。長野県の果樹栽培の未来の様子を考えてみたいわけです。学習問題を書きます。

この場面では、自分が調査していない内容(友の調査した内容)に興味関心を持たせ、全体で共有化する(学習問題「将来の長野県の果樹栽培はどうなっている?」を設定し予想する)手立てとして、生徒が生まれた年の新聞記事を扱った。1994年の新聞記事は生徒の意識を引きつける効果はあったと感じるが、単に『こんなに古い新聞』という驚きで終わってしまった。学習問題の設定も教師が主導となってしまう、果樹栽培について全体で共有化する手立てとしては適さないものであった。

この場面までの、個々でレポートを作成するために新聞記事を集める際、ほとんどの生徒は、新聞の見出しや写真のみを見て記事の取捨選択を行っていた。記事の内容ではなく、見出しや写真に興味関心を持ち、判断の比重を多くおいていると感じた。このような傾向を全体追究で効果的に生かすことができないうか考えた。

②学習問題「将来の長野県の果樹栽培はどうなっている?」を予想し、生産量は減少するという予想で落ち着いたようになった場面です...

S2 : 生産量はどんどん減っていく。アメリカとかだとバイオ燃料の作物が儲かると言われていて日本にもその影響がくる。とうもろこしを作るようになる。

S4 : 生産量は減っていく。高齢化とかで作る人が少なくなるから。天龍村でも高齢化で畑をやる人が減っているから。

S6 : 生産量はあまり変わらないか少し減る。1994年から今までの変化を見てもあまり変わらない。

S9 : 生産量は減る。農業をやる人が少なくなるから。儲からない。そんな気がする。

T : 生産量は増えるという人?

S3 : 増えるかもしれない。温暖化が進むので温かい所で育つ果物を栽培するようになる。パイナップルとか。

T : 他の作物を作るようになるということですね。今生産量は減ると言ってくれた人がほとんどなんだけれど、農家は儲からないとか、他の果物を作るようになるとか、高齢化しているんじゃないかとか予想してくれたんだけど本当にそうなの? どうすれば分かりますか?

S2 : 農家に聞こう!

T : 誰か農家の人紹介してくれませんか?

T2 : 今日はサプライズで、私の先輩が来てくれています。

宮澤さん:(現在、果樹栽培だけでなく農業全体的に今あげられたような多くの問題がある。果物自体の値段も下がって儲からない。けれども農業が果たす役割は大きい。例えば環境保全・お年寄りに仕事を与えるということ。だから、加工事業に力を入れたり農業を使わない果物をアピールして何とか売れるように頑張っている。将来の果樹栽培、生産量は微増と思いたい。)

## 学習カードより

- ◎生産量が増えそう。農家の人も結構努力しているなと思った。新聞などを使用して宣伝してもらってりんごなどを買ってもらえるようにしている。
- ◎増えるかなと思いました。農薬とか使っていないやつの方を自分も食べたいと思ったからです。
- ◎とうもろこしも作るかもしれないけれど、長野県のりんごやぶどうも作り続けてほしいです。

この場面では、個別の調査活動で調べた内容以外の事実（新聞記事からは分からない当事者の努力や思い）に気付く手立てとして、松川町で果樹栽培をしている宮澤喜好さんに授業に参加しお話をして頂いた。宮澤さんのお話を伺ってから再度学習問題について考えたところ、農家の努力に気付いたという意見や農家の思いに共感するという意見が出された。個別の調査活動で調べた内容以外の事実に関心する手立てとしては、有効であったようにも感じるが、一方で、

- 宮澤さんとの事前打ち合わせが不十分で話の焦点が定まらなかった。
- 中学生が集中して話を聞くには時間が長すぎた。
- 話の内容が概念のみで農家のリアルな苦労や工夫については伝わらなかった。

など多くの問題点も浮上した。

授業内容に関わる方から直接お話を聞くことは有効な資料であったが、お話をして頂ける方にはこちらの意図を十分に伝え、綿密に打ち合わせや準備を行うか、直接お話を聞くのではなく、ビデオ等で編集したものを生徒に見せる方が効果的であると思われる。

### （３）研究仮説

#### ①このような生徒達が

個別やグループ別の調査活動を意欲的に行い、多くの資料を粘り強く集めることができるが、まとめの場面では、集めた資料の取捨選択を行わなかったり資料を丸写ししてまとめたりすることがあり、自分自身での理解が不十分な場合がある。そのため、全体追究の場面において発表内容が聞き手に十分伝わらないことがあり、結果的に自分調査した内容に関するもののみが強く印象に残り、自分が調査していない内容に興味関心が持てず共有化につながらない。より広い視野から自分の考えを持つことができない。

#### ②このような手立てで

- 調査活動のまとめの場面で、聞き手に興味関心を持たせるようなまとめ方や発表の仕方をさせる手立てを行う。  
：本物の新聞の形式にこだわり、見出しに重点を置いて調査活動の内容をまとめさせ、全体追究に用いること
- 全体追究の場面で、より広い視野から自分の考えを持たせるための資料を提示し授業を展開していく。  
：生徒に気付かせたい事象に関わる資料や授業内容に関わる方からのお話
- 全体追究の場面での、発表や発表を聞く方法を事前に明確にしておき、意識して取り組む。  
：聞き手の表情を見ながら発表すること、発表内容の根拠を示すこと、聞きながらよく分からない時は質問をして積極的に理解しようとする

#### ③このような姿が期待できるであろう

自分が調査しまとめた内容以外の事実や見方・考え方に気付き、学習を進めてきた事象に対して広い視野に立ち、考えを持つことができる。

### （４）単元展開

①単元名 「さまざまな面からとらえた日本 人口の特色をとらえよう」 2学年 地理

#### ②主目標

世界的な視野から見て、日本の自然環境に関する特色を理解し、国内では地形・気候などにおいて地域差が見られることを大観した生徒が、再び世界的な視野から見て、日本の人口に関する特色を理解し、国内では平野部に多くの人口が集中することで過密・過疎地域がみられることを大観するとともに、過疎地域である天龍村が抱える少子高齢化問題への行政対策や関係者、村長さんの思いを知り、自らも地域を支える一員であることを自覚することができる。

### ③単元の展開

学習問題/学習内容	指導/評価	時	資料
1. 世界の人口分布と変化  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             &lt;学習問題&gt;              なぜ、アフリカは人口増加率が高い国が多いのだろう。           </div>	○天龍村・長野県・日本・世界の人口を確認し、世界人口については2050年の数値を予想する。 ○特に人口増加率が高い国を地図上で探し、学習問題を設定する。 ○アフリカの国々の貧困や子どもが与えられた役割が分かる資料から結論を導く。	1	・国別人口増加率 ・図書「アフリカ」「エチオピア」
2. 日本の人口の変化と特色  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             &lt;学習問題&gt;              天龍村の人口ピラミッドは、どんなかたちをしているだろう           </div>	○人口ピラミッドの読み取り方を確認し、学習問題を設定する。 ○天龍村の年齢別人口の資料をもとに人口ピラミッドを作成する。 ○天龍村の人口ピラミッドの大まかな形と特徴がある人口ピラミッドの形を確認し、日本や天龍村の人口の特色を話し合う。	1	・天龍村年齢別人口 ・いろいろな人口ピラミッド
3. 日本の人口分布  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             &lt;学習問題&gt;              どんなどころに人口が集中しているだろう。           </div>	○人口の偏りが分かる日本地図を元に、学習問題を設定する。 ○地形が分かる日本地図と照らし合わせながら結論を導く。 ○「過疎」「過密」という語句について具体的に地図上で当てはまる場所をあげ、確認する。	1	・日本の人口密度地図 ・日本の地形図
4. 人口が過密な地域の生活 5. 過疎地域の生活  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             &lt;学習問題&gt;              過密地域や過疎地域の様子を絵にしてみよう。           </div>	○「過疎」「過密」のイメージを自由に書き出す。 ○学習問題を設定し、教科書を読みながら過疎地域、過密地域の様子を絵で表し、最初にあげた自分のイメージと比べる。 ○過疎地域、過密地域のキーワードを出し合い、それぞれの地域のおおまかな特色を確認する。(過疎地域のキーワードとして、「少子高齢化」を含める。)	1	・教科書
5. -① 高齢化率が高い天龍村は、他地域からどう思われているのだろう。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             &lt;学習問題&gt;              補足の記事を書こう。           </div>	○天龍村の高齢化の新聞記事を提示し、これを読んだ他地域の中学生がどんなことを思ったか予想する。 <b>(7) 添付資料-a 天龍村の高齢化率に関する記事とこれを読んだ他地域の中学生の意見参照</b> ○他地域の中学生の意見から学習問題を設定する。	1	・新聞記事 ・他地域の中学生の意見
5. -② 調査活動を行い、新聞を作ろう。	○各グループで役場や関係者に聞き取り調査を行う。 ○調査内容は、本物の新聞の形式にこだわり、特に見出しに重点を置いてまとめるよう指導する。	5	・各グループが集めた資料
5. -③ 発表会を開こう。	○発表や発表を聞く方法を明確にしておき、意識して取り組むようにする。 ○各グループで作った新聞をもとに発表を行う。 ○聞き手には、各グループで作った新聞の見出しに注目させる。	1	・各グループが作成した資料

<p>5. -④ 補足の記事を書こう。</p>	<p>○前時に行った各グループの発表をふまえて補足の記事を書き、発表する。 ○天龍村のこれからの高齢化率と、65歳以上の人口、また、それを支える年齢層の人口を、S40からの数値をもとに予想する。 <b>(7) 添付資料-b 天龍村の高齢化率の推移参照</b> ○村長さんからの手紙を読む。 <b>(7) 添付資料-c 村長さんからの手紙参照</b> ○補足の記事に書き加えることはないか考え、記事を書き上げる。</p>	<p>本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード（補足の記事が書き込めるもの）</li> <li>・天龍村の高齢化率の推移</li> <li>・村長さんの手紙</li> </ul>
-----------------------------	---	-----------	---

**(4) 本時の活動**

**①主眼**

調査活動の発表を終えた生徒が、発表の内容をふまえて補足の新聞記事を書くことを通して、天龍村が抱える少子高齢化問題への行政対策を知り、過疎地域の特色を理解し、また、これからの天龍村の高齢化率やその時の自分のあり方を予想したり村長の願いを知ったりすることで、自らも高齢化する地域を支える重要な一員であることを自覚することができる。

**②本時の展開**

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導	時間	資料
導入	<p>1 学習問題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>&lt;学習問題&gt; 補足の記事を書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「補足の新聞記事を書こう」だった。</li> <li>・前回の発表の内容を思い出さないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題を確認し板書する。</li> <li>・前時間の発表内容の確認はしない。</li> </ul>	3	
展開	<p>2 補足の新聞記事を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>天龍村50%超</b></p> <p>る。自由に記事を書き加える。この後に</p> <p>高年齢者。…この後に</p> <p>村民の二人に一人が</p> <p>龍村の50.6%で、</p> <p>の最高は下伊那郡天</p> <p>が分かった。市町村別</p> <p>が十五日、県のまとめ</p> <p>最高を更新したこと</p> <p>0.6%上回り、過去</p> <p>7%で、前年同期を</p> <p>在の四月一日現</p> <p>県内の高齢化率は24.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を、どんな風にか書こうか迷うな。</li> <li>・全部の発表のことを書くと量が多くなるかな。</li> <li>・「天龍村は心配ない」ということを書きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いついたことをどんどん書き込むこと、従ってきれいに書く必要はないことを説明する。</li> <li>・作業が進まない生徒には、机間指導の際「新聞を読む人にとって一番伝えたいことは何？」と発問する。</li> </ul>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード（補足の記事を書き込めるもの）</li> </ul>
	<p>3 発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しかし、介護の制度や災害の対策は整っています。病院はありませんが診療所があります。農作業も手伝いをしてくれる組織があります。<u>高齢化率が高くても心配いらない村です。</u></li> <li>・<u>お年寄りのことを考えている村です。</u></li> <li>・住んでいる自分も知りませんでした、意外と対策が整っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挙手発言がなくてもじっくり時間をとって進める。</li> </ul>	10	

	4 天龍村の高齢化率の推移を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上がると思う。</li> <li>・昔は高齢化率がこんなにも低い時代があったんだ。</li> <li>・お年寄りが増えすぎて対策が間に合わないかも。</li> <li>・自分に何かできることがあるかな。</li> <li>・村に住んでいないだろうからできることなんてない。</li> <li>・村のリーダーだから村長さんに聞いてみれば分かるかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この50%ってこれからどうなるのかな。」と発問する。</li> <li>・S40からの高齢者の人口とそれを支える年齢層の人口を合わせて、高齢化率の推移が分かる資料を提示する。</li> <li>・将来の自分のあり方や村の様子を想像させる。</li> <li>・「その時みんなには何ができるかな」という発問をする。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天龍村高齢化率の推移 <b>(7) 添付資料 1b</b></li> </ul>
	5 村長さんからの手紙を読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村長さんがわざわざ手紙をくれるなんて…</li> <li>・私達が将来も村に住めるような工夫をしてくれている。</li> <li>・村に住まなくても、村を大切に作る気持ちがあればいいのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が手紙を音読する。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村長さんの手紙 <b>(7) 添付資料 1c</b></li> </ul>
まとめ	6 補足の記事を書き加える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は将来村に住まないかもしれませんが村を大切に思う気持ちはなくさないです。</li> <li>・自分はもし仕事が見つければ村に住んでお年寄りを支えたいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いついたことをどんどん書き込むこと、従ってきれいに書く必要はないことを説明する。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード（補足の記事を書き込めるもの）</li> </ul>

### ③実証の観点

・これからの天龍村の高齢化率を予想しその時自分はどうかという村長の願いに触れたことは、調査活動では気付くことができなかった「自らも高齢化する地域を支える重要な一員であること」に気付くのに有効であったか。

：有効であったとすれば、自分が関わる内容の補足の記事を書くことができるであろう。

### ④授業記録

T：プリント1枚配ります。それでは、前回まで発表をしてもらったわけですが、そもそもの学習問題を言って下さい  
S8：補足の新聞記事を書こう。

T：もう1度書きましょう。今日配ったプリントに書く場所があります。(板書)補足の新聞記事を書こうということで、皆さんにはグループ別に調査、発表をしてきてもらったわけです。他地域の中学生に向けてということですので、1番最初に見た、この新聞記事「市町村別の最高は、下伊那郡の天龍村の50.6%で、村民の2人に1人が高齢者。」この続きの記事を書いて下さい。 S6：50.6%うそだ。

T：これね、去年の新聞なので、S6さんの方が、情報が新しい。50.いくつだった？ S6：50.48。

T：一番、最新情報では、高齢化50.48ね。おおまかに50%ね。手元にある新聞記事と、授業プリントを参考にしてもらっていいです。15分間時間をとります。たがき、よこがきどちらでもいいです。思いついたことをどんどん

書き込んでほしいので、きれいに書く必要はないです。では書いて下さい。迷ってしまう人は回りますので、質問をして下さい。

T：それでは、途中の人もいると思いますが、そこまでいいです。発表してもらいたいと思います。

S 2：村民の2人に1人が高齢者。そのため、村が考えなければならない問題はたくさんある。まず1つ目に老人ホームが不足している問題だ。2つ目には災害の時のお年寄りへの対応も問題である。村では地域の安全マップを作っている。これには、地域のことやお年寄りのことなど事細かに載るそうだ。これらの他にもまだまだ問題は山積みだ。ぜひ、これから問題を解決してこれからもいい村にしてほしい。

T：老人ホームのこととか災害の時のお年寄りの対応について問題があるということね。S 2くんはその点についてどう思ったの？調べてみて、対策はとっているのだけれど？ S 2：まだ全然足りない。

S 3：天龍村の役場で聞いたところ、天龍村では高齢者が多いので、病院・介護・災害・お年寄りの力仕事などの問題があった。この問題に対して村は、それぞれの解決策をとっている。

T：それについてどう思った？ S 3：良いことだと思った。

S 8：そのため農家を辞めてしまう人もいるため手入れされていない土地が増えてしまうのが現状である。一方、そういう土地を増やさないようにするために集落の人たちが協力して農作業を行っている。

T：それについてどう思った？ S 8：すごく協力性のある村だなと思った。

S 6：ですが、天龍村のお年寄りは元気なお年寄りが多いです。それは、天龍村が行っている運動教室にお年寄りが入っていて体を動かしているからです。そして突然の大けがや事故の時も、ドクターヘリが浜松や佐久から来て、対応してくれているからです。そのドクターヘリは地震などの災害の時にも来て…ここまでしか書いてありません。

T：教室があったりドクターヘリが来てくれることでお年寄りはどうなの？ S 6：楽。

S 1：しかし村の方も何もしていないわけではない。このような村でまず気になるのは、医療に関することだ。天龍村には病院がなく、診療所が1つあるだけだ。そこで活躍するのがドクターヘリだ。急な患者や診療所の方で判断した場合、大きい病院に運ばれる。このヘリは天龍村に近い浜松から来て、大体は飯田市立病院に患者を搬送する。…で、その他のグループの発表の事を書いて、最後は、しかし対策はしているけれど、まだ完全ではなくて、もっと他にも対策してほしいという内容で書き終わるつもりでした。

T：ちょっと質問を変えようと思います。みんなは、新聞記事を書いて、今のS 1くんのように、こういうふうにと文章をとじようと思ったとかこういう気持ちでまとめようと思ったとかあると思うのだけれど、村の対策を知って、「十分だな、結構やってやっているな」という方と、「もっと他にも対策をとってほしい」という方と、どちらかに当てはまる？ S：入ります。

T：聞きます。十分だな、結構やってもらっているのだな、という人？ S：(2人)

T：もうちょっとやってほしいな、という人？ S(11人)

T：もうちょっとやってほしいな人は、どんなところからそう思ったか教えて下さい。

S 10：新聞記事にも書いてあるように、2人に1人が介護とかしていかないといけないから、介護施設とかにも入りたい人がいるのに、それでも入れない人がいるという状態になっているから、介護施設がもっと増えて、お年寄りも安心して生活できるようになるといいと思った。

T：介護以外の面の人？

S 13：介護のことになってしまうのだけれど、お年寄りが非常に多いので、老人ホームを作って、お年寄りが安心して暮らせるような場所を作ってほしいと思った。

T：老人ホームの面ではない人いますか？

S 9：災害が起こった時に、2、3日分くらいの、準備品があるけれど、1週間くらいの長期間になったらちょっと足りなさそうだったので、もう少し長い時間生きていられるような対策をとってほしい。

T：質問変えます。今、天龍村が高齢化率が50%をこえているということでこういう対策をとっている、それに対して、足りている、足りていないという意見がありましたけれど、この高齢化率というのは、今後、どうなると思います？

S 8：もっと増えていく。 S 2：いや、下がる。

T：50%より下がると思う人？ S：(2人)

T：何でそう思ったの？

S 2：今いる高齢者の人が、たくさん亡くなると高齢化率が下がるから。

T：高齢者の人は、若いS 2くんに比べるとそうなる可能性があるってことで、高齢化率が減っていくと思ったわけね。

S 1は？ S 1：S 2くんと同じで、今言ったような感じで、高齢化率が減ると思った。

T：あとの人は高齢化率が増える、でいいの？増えると思う人？ S：(10人)

T：S 3くん、何？ S 3：俺、平行。

T：変わらない？何で？ S 3：何でだろう？なんとなく？

T：こんな資料も準備してきました。これからの高齢化率を予想するための根拠になるかなと思って、準備してきたのですが、「天龍村の高齢者の人口と高齢者を支える人口の移り変わり」を少し昔から今に至るまでを見てもいいかなと思って。今は、高齢化率？ S：50。

T：ということは、高齢者の人口と高齢者を支える人口が？ S：半々。

T:平成20年の時点で、高齢者が951人、支える人口が915人。問題です。今から40年位前だと、それぞれの人口はどんなもんだったと思いますか?ヒントで、当時の高齢者の人口を言うね。高齢者は昭和40年だと、459人ね。では、高齢者を支える人口はどんなもんだと思いますか?

S6:2000。 S2:5000。 S3:3000。

S6:ああ、3000はいくかもしれない。 S2:3500。

T:正解は、4500。 S:ええ~。

T:これ、すぐ計算できる?高齢化率何%? S13:10%くらい。

T:そうだね、10%くらいだね、ええと、9%だそうです。高齢化率はこっちの目盛で見ます。10にいかないの、このへんかな。10年たちました。昭和50年ではどうなったでしょう?4500人の高齢者を支える人口はどうなったと思う? S8:3800人。 S3:減る。

T:3151人になります。 S6:何で一気に減るの?

T:それで、高齢者の人口が588人。 S2:人口減った。

T:人口も全体的に減ってきているね。高齢化率が、15.7%。この先はどうなっていくと思う?

S8:減っていく。

T:たどり着く所がここ(平成20年の値)だからさ。 S9:減っていく?

T:減っていくね。高齢者を支える人口がどんどん減っていくね。昭和60年では、2300人。

S:ええ~ S3:何があったんだ、一体?

T:平成7年では、1500人。平成17年では、2023人。 S6:何でそんなに減るの?

T:高齢者の人数も言っていくね。588人の次(昭和60年)が、728人。次(平成7年)が937人。次(平成17年)が、979人。

S13:(高齢者の人口が)下がったんですか? S6:一回減ったんじゃないですか?

T:うん、ちょっと減っているね。高齢化率も書いていくね。昭和60年になると23%。平成7年、38%。平成17年、48%。 S6:きゃー S2:だんだん、平行になっていく。

T:どう?ここから先、どうなる? S3:平行になるんじゃない? S2:悩みどころ。

T:高齢化率、上がると思う?聞きます。高齢化率、下がると思う人? S:(1人)

T:上がると思う人? S:(10人) S8:老人が長生きすると上がるんじゃない?

T:変わらないの人? S:(2人)

T:先の話は分からないのだけど、このグラフは10年おきになっているから、平成17年の10年後の平成27年のことを予想してほしいのだけれど、そうすると7年後なので、いくつ? S:21歳。

T:21歳になった時に、みなさんは、村の高齢化について何かできそうですか?

S2:俺、その前にまずこの村にいない気がする。

T:村から出ていってしまうという人? S:(全員)

T:村から出ていけないという人? S:(0人)

T:じゃあ、いずれ村から出ていってしまうみなさんは、村の高齢化に対して何もできないの?

S6:じゃあ、若い人を連れてくる?

T:皆さんに与えられた役目っていうのはないの?大きくしてもらったら、村から出て行っていいの?

S2:そう言われても... S3:いずれ帰ってくる。

S6:そんなこと言われても、働く場所がない。 S8:行事の時だけ帰ってくる。

T:みんなに与えられた役目っていうのは、難しいけれど、誰かに聞くとしたら、誰に聞いたらいいと思う?

S6:村長?

T:村長さんに聞いたらいいと思う?

S2:お年寄りに聞いた方がいいと思う。 S9:若い人に聞いた方がいいと思う。

T:どれよ? S6・S9:村長さんかな?

T:そう思って、村長さんからお手紙をもらってあります。配ります。本当は、お手紙のまま配ろうと思ったのですが、今回みんなが新聞を作ったので、私も村長さんの手紙を新聞形式にしてみました。ちょっと読みますね。「これからの天龍村。どうする?高齢化」「みんなにできること。それは…」見出しは私がつけました。みんなにできることがあるんだね。(朗読)今の手紙を読んで、もう1回、最初のこの記事に付け加えることがないかどうかを考えて、文章を書き加えてほしいと思います。

#### <学習カードより 付け加えの記事>

- 村には住めないけれど、村のことを愛せるようになりたい。
- 私たちには、村を支え、村を愛する気持ちを大切にすることが求められている。
- やはり、高齢化率が増えて人口が減っていくのが今の天龍村だ。なので自分たちが変えていかなければならない。そのために私たちが村の近くに住めばいいと思う。
- 今、村では高齢化率を減らすために仕事をする場所を増やしたり家などについて考えている。将来どうなるかは分からないけれど、自分でも考えてみたい。
- 高齢化率を下げていくことは非常に難しいこともあるが、若い人の力で村を支えていってほしい。一番は若い人の力が必要なので、将来村に残って若者として頑張っていきたい。



**(6) 研究のまとめと課題**

- ・本物の新聞の形式にこだわり、見出しに重点を置いて調査活動の内容をまとめさせ全体追究に用いたことは、聞き手に興味関心を持たせ調査内容を全体で共有化する手立てとして有効であったか。

仮に有効であったとすれば、本時の中で補足の新聞記事を書く際、自分のグループの調査内容だけをもとにして新聞記事を書くのではなく、積極的に他のグループの調査内容（自分が調査していない内容）をもとに新聞記事に書くことができるだろうと考えていた。結果、全13名の生徒中10名が他のグループの調査内容をもとに新聞記事を書いた。よって本物の新聞の形式にこだわり、見出しに重点を置いて調査活動の内容をまとめさせ全体追究に用いたことは、それぞれのグループの調査内容をクラス全体で共有化する手立てとして有効であったと考える。このように、調査活動の内容をまず自分自身が理解し、友に効果的に伝えることができ、印象に残るようなまとめ方および全体追究の方法は、他にはどのようなものが考えられるだろうか。今後さらに模索し、各単元や授業に最も適した手立てを選択できるようにしていきたい。

- ・生徒に気付かせたい事象に関わる資料や授業内容に関わる方からのお話を提示し授業を展開したことは、より広い視野から自分の考えを持たせる手立てとして有効であったか。

仮に有効であったとすれば、実証の観点であげたように、村長さんからの手紙を読んだ後の、再度補足の記事を書く場面で自分が関わる内容の補足の記事を書くことができるだろうと考えていた。結果、全13名の生徒中6名が、自分が関わる内容の補足の記事を書いた。今回の実証授業において、過疎地域である自分の故郷が抱える問題は自分にも関係する問題であると気付かせることが授業者の最大の目標であった。その気付きが「より広い視野から持つ自分の考え」であると言えるのかどうかは今後また検討をしなければならないが、クラスの半数の生徒が村長さんの思いから自分を振り返ることができたことで、より広い視野から自分の考えを持たせる手立てとしては有効であったと考える。一方で、同数の生徒は自分に関わる内容の記事を書くことができなかったことから、「生徒に気付かせたい事象に関わる資料や授業内容に関わる方からのお話」をどのように教材化するのが適切なのか、検討していきたい。

**(7) 添付資料**

- a. 天龍村の高齢化率に関する新聞記事とそれを読んだ他地域の中学生の意見  
(信濃毎日新聞 2007年5月16日)

**県内高齢化率24.7%過去最高**

県内の四月一日現在の高齢化率（人口に占める六十五歳以上の割合）は24.7%で、前年同期を0.6%点上回し、過去最高を更新したことが十五日、県のまとめで分かった。市町村別の最高は下伊那郡天龍村の50.6%（前年同期比1.0%点上昇）で、村民の二人に一人が高齢者。30%を超える自治体も十三町村と、全市町村の四割に達して

**天龍村50%超**

4月1日現在いる。市町村別にみると、高齢化率が五割を超えたのは天龍村一村。四割台は下伊那郡大鹿村（49.2%）、上水内郡中条村（46.3%）、下伊那郡亮木村（45.2%）、下水内郡栄村（43.8%）、下伊那郡根羽村（43.3%）、上水内郡信州新町（42.3%）、南佐久郡北相木村（41.5%）、上水内郡小川村（41.2%）の八町村だった。一方、高齢化率が最も低いのは上伊那郡南箕輪村の18.7%（前年同期比0.6%点上昇）で、県内で唯一20%を切っている。十九市では、飯山市が29.8%（同0.4%点上昇）で最も高く、茅野市が21.6%（同0.8%点上昇）で最も低い。四月一日現在の県の総人口は三百八万七千六百三十四人で、前年同期を六千八百五十五人下回った。

県内自治体の高齢化率（4月1日現在）（県企画局まとめ）

町村名	高齢化率(%)	前年同期比(%)
<b>【高い自治体】</b>		
天龍村	50.6	1.0
大鹿村	49.2	0.3
中条村	46.3	1.0
亮木村	45.2	0.9
栄村	43.8	1.7
<b>【低い自治体】</b>		
山形村	21.4	0.6
波田町	21.3	0.5
箕輪町	21.3	0.6
御代田町	21.0	0.6
南箕輪村	18.7	0.6

市が21.6%（同0.8%点上昇）で最も高く、茅野市が21.6%（同0.8%点上昇）で最も低い。四月一日現在の県の総人口は三百八万七千六百三十四人で、前年同期を六千八百五十五人下回った。

今回、他地域の中学生の意見として取り上げたい4点（抜粋）

<災害関係>○災害など起こったらとても大変そう○災害が起きたらどうするのか○大きな地震や火事の時の対処は○地震の土砂崩れのような災害が起きたら避難がとても大変。お年寄りに手をさしのべてあげてほしい

<農業関係>○農作業や雪下ろしのような力仕事の時はどうするのですか○畑や田んぼの仕事もお年寄りだけでするのですか。

<医療関係>○病院などの施設はあるのか○病院に行くのが大変そう○大きな病院がなくてつらいだろうから、必要な施設はきちんと作るべき○病院は近くにあるとすぐ行けるのですか○医者はいらぬのか○いきなり倒れたりしたら助かるのは難しいのではないかと

<介護関係>○毎日介護をしなければいけない○面倒を見てくれる人はそばにいますか○介護しきれない人が出てくる○老人ホームなどゆっくり休める場所はあるのですか

**b. 天龍村高齢化率の推移（10年毎）** ※授業では、折れ線グラフで提示した。

	S 4 0	S 5 0	S 6 0	H 7	H 1 7	H 2 0	H 2 7
総人口	4, 968	3, 739	3, 051	2, 445	2, 002	1, 866	?
65 歳～人口	459	588	728	937	979	951	?
～64 歳人口	4, 509	3, 151	2, 323	1, 508	1, 023	915	?
高齢化率	9. 2	15. 7	23. 8	38. 3	48. 9	50. 9	?

（天龍村ホームページ 年齢階級別人口より算出）

**c. 村長さんからの手紙**

中学校2年生のみなさんへ

社会科の授業で、高齢化について勉強されていると聞きました。村長として村の高齢化についての考えを書きます。勉強の参考にしてください。

天龍村は、長野県の一番南の県境にあって、私が村長になった時から、人口の減少による高齢化について、どう対応するかという問題をかかえていました。高齢化は、今も天龍村にとって大きな問題です。村の将来にむかってどんなことをしていかなければならないのか、村民が一体になって意識を高めていかなければならないと思っています。小さな村はつぶしてしまう改革も考えられるでしょうが、やはり現状の中で頑張ることも大切です。

村の将来に向けて、みなさん若者に期待することは、第一に村を愛する気持ちを大切にしてほしいと思っています。率直に言えば、天龍村の一員でいてほしい。だが、村の現状で言えば、村に残って頂く根拠がうすい。

どういうことかということ、まず働くところがない。そこで、村の中でもっと仕事をふやすことはできないか、と考えています。また、少し遠くても、飯田市周辺で仕事を探し、村に住んで通ってほしいと思ひ、今、村では、村から仕事に通っている人に、通勤の補助を出すように計画していますが、知っていますか？

家の問題も重要で、みなさんも大人になれば結婚し家族を持つでしょう。そうしたら家が必要になる。家が必要ならマンションや一戸建て住宅の建設も必要ですね。今、村も考えています。

さらに、子育てでは、すでに行っている中学生以下の医療費の補助や、保育園の費用の補助、給食費の補助など教育に関係する費用の負担を軽くすることを考えています。また、村は、今後、農業や林業を盛り上げていきたいと考えていますが、こうした仕事につく気持ちはありますか？できれば、このような仕事を盛り上げるためには、君たち村の若者の力を必要とするので、そうした仕事に希望を持ち、都会の若者に負けないファイトがほしい。

しかし、今、あげたようなことを行っても、高齢化の厳しい状況は変わらないかもしれませんし、みなさんも将来は村外に出て生活するかもしれない。しかし、大変な時期ではあるが、皆さん若者の力で天龍村を支えてほしい、若者の底知れぬエネルギーに期待したい。これは、村の中に住んでいる住んでいないにかかわらず、村を愛していれば、どこにいてもできることなのです。村の文化的な面で、現在も伝えられている、お祭りや伝統も、人口の減少や高齢化に悩まされながら、元気な年寄りが頑張っている。そんな姿を、みなさん若者がよい手本として頂きたい。

何事もきれいごとだけでは、解決できません。真剣に理解し、人口を増やしたり、高齢化に対応するためにはみなさんの生き方がおおいに影響します。良い村にするために、みなさんからも意見を求めたいのと、何事も挑戦と思ひ、ぜひ若さで、不可能を可能にする勇氣に大いに期待しています。

